

令和3年度 安全管理優良受注者 安全管理事例集

目 次

井口建設工業 株式会社	P. 1
株式会社 伊藤組	P. 2
株式会社 植木組	P. 3
株式会社 岡部	P. 4
株式会社 小池組	P. 5
第一建設工業 株式会社	P. 6
ダイチ 株式会社	P. 7
田中産業 株式会社	P. 8
株式会社 中越興業	P. 9
株式会社 傳刀組	P.10
株式会社 富樫組	P.11
砺波工業 株式会社	P.12
畑八開発 株式会社	P.13
町田建設 株式会社	P.14
松本建設 株式会社	P.15
株式会社 丸西組	P.16
南建設 株式会社	P.17
株式会社 宮地組	P.18

(50 音順)

令和3年 9月13日
北陸地方整備局 企画部

井口建設工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

「安全衛生委員会」において年間の「安全衛生活動計画」が確立され、これに基づき充実した安全活動が展開されている。

②「作業標準・作業手順書」の作成と整備

過去の実施工事・施工実績より検討し作成した「作業標準・作業手順書」を整備してあり、現場の安全施工にフィードバックして活用している。

③各種講習・資格取得に向けた取組

技能の向上、資格取得に向け外部講師を招いた社内講習会を実施すると共に、オンライン講習を含めた各種講習会・研修等にも積極的に参加させている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①蛭窪溪流保全工の5工事における安全管理上の課題

流路護岸工における間知ブロック施工では人力による積作業となり、作業員の身体面の負担が大きく、特に腰を痛める懸念があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

ブロック積み的人力作業においてはマッスルスーツを着用し、空気の力により中腰からの持ち上げ作業における身体への負担軽減を図った。また、個室空間のリラックスルームを設置してマッサージチェア、ヒーリング音楽CD等を備えて、作業員の健康増進やストレス解消に利用してもらい、快適な職場環境の向上に積極的に取り組んだ。



3. その他工夫している点

①各機関との災害協定の締結・応援業務の取組

国、県、市、高速道路等の緊急時の業務締結、災害時の応援業務を迅速に行い、会社全体として緊急時における対応組織の構築・連絡体制を確立している。

②働き方改革への取組

会社の就業を完全週休2日制として基本的に全ての現場において適用し、緊急等の出勤については代休の取得を推奨することで労働環境改善への積極的な取り組みを行っている。



株式会社 伊藤組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生基本方針

『指導教育を通じて協力業者と共に安全衛生水準を向上させ、災害の無い健全な職場を築く。』を基本方針とし、無事故・無災害・健康保持増進に取り組んでいます。

② 社内安全管理体制の構築

安全衛生管理活動計画に基づき、安全衛生委員会(月1回)、経営者及び安全管理者パトロール(月2回)、安全大会(年1回)を実施し、店社パトロールでの結果報告及び改善報告を全現場に情報共有することで、全社員の安全意識高揚に取り組んでいます。

③ 施工検討会の実施

工事着手前に経営者、各部門長出席による施工検討会を開催し、様々な観点から事故を未然に防止する対策を議論し、会社全体で事故防止に努めています。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 穴沢第1号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

令和2年7月豪雨で近隣の横山沢にて土石流が発生し、被災した溪流の応急復旧工事を本工事で行うことになりました。
土石流発生後の危険な溪流内での除石作業を行う上で、異常事態発生時の作業者の安全確保が課題となりました。

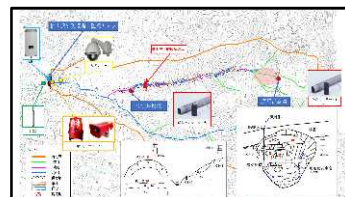
土石流発生状況



② 課題に対して現場で行った安全対策

土石流発生後の現場における事故を防止する為、施工場所に気象監視システムを設置し、計測データをクラウド上に集約し、また、異常事態発生の際には複数の方法で早期情報を発信することでいち早く避難出来るなど、現場の気象変化や作業環境を十分に把握することで、作業者の安全を確保しながら施工を完了することが出来ました。

監視システム設置計画



異常事態発生時の通知について



3. その他工夫している点

熱中症対策として、WBGT 値などを確認できる電光掲示板やウォーターサーバー等を完備した簡易休憩所を現場内に設置するなど、作業員の健康管理にも留意しました。



電光掲示板



WBGT 値表示



簡易休憩所



ウォーターサーバー



注意喚起のぼり旗

株式会社植木組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生計画の策定

当社の安全衛生方針に基づき、当社や全国の建設業の労働災害・事故等の発生状況及び国の施策を考慮し、毎年度の安全衛生計画を策定しています。

②安全衛生目標（2021年度）

- 1) 休業4日以上労働災害の発生 ゼロ 2) 加害交通事故の発生 5件以下
スローガン 「育てよう 危険に気づく目 感じる心」

③労働災害防止の重点実施事項（2021年度）

- 1) ヒューマンエラーによる労働災害の防止 2) 墜落・転落災害の防止
3) 重機に起因する災害の防止 4) 交通事故・違反の防止
5) 健康に配慮した快適職場環境づくり

2. 現場等における具体的な取組事例

①新潟港(西港地区)航路泊地付帯施設中仕切堤工事における安全管理上の課題

本工事は新潟空港に隣接した施工箇所であることから、航空機が安全に離着陸するための転移表面高さ制限下での作業であった。昼間作業では使用するクレーンのブーム先端高さに十分注意する必要があるが、また一部の作業範囲では制限高さを超えて作業を行うため、その範囲については夜間作業を行った。

②課題に対して現場で行った安全対策

転移表面高さの制限を超えないように、クレーン付台船の性能やブーム角、潮位等を考慮して、制限を受ける作業範囲と昼夜作業を区分する作業範囲を決定した。

昼間作業時にはクレーンの作業範囲制限装置を作動させる事でブーム先端高さを管理し航空機の離発着に配慮した。

夜間作業においては、クレーンへの航空障害灯の設置、夜間作業中の連絡体制における役割分担、及び、施工場所の全体照明設置と個人のヘッドライト装着を徹底して行うことで、トラブルや事故の発生なく夜間の作業を完了した。



3. その他工夫している点

- ・海上作業のため、油流出を防止しつつ電源を確保できるソーラーパネル一体型の休憩所を設置した。エアコン、冷蔵庫等の設備を常時(昼夜)使用できるようにして、適切な環境で休憩をとれるようにした。
- ・施工箇所が海上にあるためライブカメラを設置してリアルタイムで現場状況を把握できるようにした。波浪状況や作業状況等を確認する事ができ、作業船の出入港や作業可否の判断、現場状況に合わせた作業内容への変更等に活用した。

株式会社 岡部

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

「人命尊重」を最優先し、働く者一人ひとりの安全の確保を図るとともに、全社員が「安全第一」を自ら行動で示し、一致協力して安全水準の向上と維持に努め、安全な職場環境の形成を目指す。

②安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理実施計画に基づき、安全衛生委員会が中心となり毎年定める活動方針や安全衛生目標の日々の周知、啓発活動に加え、安全大会（2月・7月に開催）や各種特別教育の開催など安全衛生活動に努めている。

③多方面からの安全パトロールの実施

労働災害の未然防止、従業員の安全意識の高揚を目的とした安全活動の一環として、「経営トップおよび幹部」、「安全部」、「女性社員」、「協力会社との合同」「現場相互点検・意見交換」など多方面から安全パトロールを実施し、全社的に安全意識の改善・高揚を図る。

2. 現場における具体的な取組事例

①R1 八町跨道橋等耐震補強・補修工事における安全管理上の課題

- 桁下の狭隘な空間で、重量1.3t/基の耐震部材を安全に取付できる仮設設備が必要。
- 橋脚コンクリート巻き立て補強掘削部に近接した位置に電力地下埋設管があることが判明し、原位置での損傷防止・保護が必要となった。

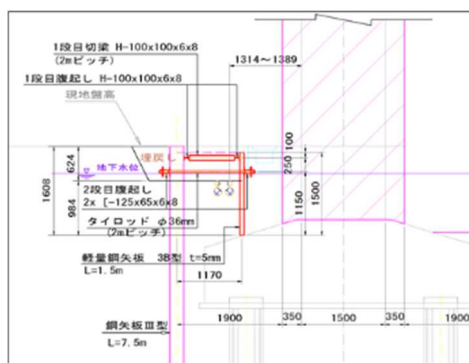
②課題に対して現場で行った安全対策

- 重量物に耐えられるよう足場材から支保工材に作業床を組み替えてレール敷設し、高さ調整可能なジャッキタイプ台車で運搬・取付を行った。（右写真）



桁下 耐震部材台車運搬

- 鋼矢板及び軽量鋼矢板にて仮設土留を検討して施工。電力地下埋設管を損傷させることなく巻き立て補強の作業空間を確保することができた。（右図・写真）



電力管保護 仮設土留工

3. その他工夫している点

web 会議システムを導入し、本社との情報共有や非常時の会議打合わせ等に活用している。

株式会社 小池組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理基本方針

「建設業を営むものとして、プロ集団の自覚を齎し、安全を第一として快適な職場環境の形成を図り、有効性の継続的な発展を目指す」

行動指針・・本社及び現場作業所の安全管理体制をより充実させ、災害ゼロを達成する。

・安全衛生教育及び店社安全パトロールの計画的実施。

②社内安全衛生管理体制

安全衛生委員会にて年度安全衛生管理計画を決定し、月1回の店社安全パトロール及び無通告パトロールの実施、年1回の安全大会の開催、月2回の安全工程会議の開催、工事着手前の施工検討会等を実施している。また年間及び3ヶ月毎の安全スローガンを定め、各作業所に掲示し全作業員一丸となり安全管理に取り組んでいる。

③各作業所における日々の安全活動

災害防止協議会を設置し、安全重点目標を定め元請・下請が一体となり安全管理に徹する体制を整え運営している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① R1 荒川下流部緊急対策工事における安全管理上の課題

乙大日川放水路の矢板護岸施工にあたり、狭小な放水路を航行するマリーナ内の船舶及び漁協関係者（釣り客）への安全管理が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

関係者との連絡調整を密に行い、工事周知チラシを配布すると共に矢板施工中は船舶接近時に作業一時停止し航行を優先させ施工を行った。矢板施工端に位置標示用ポールを設置し航行する船と矢板の接触事故防止を図った。また、車両通行路となる堤防道路は釣り客の車で混雑し工事車両との接触事故が懸念されたため、漁協及び発注者と協議し堤防脇に駐車帯を設け駐車場案内看板を設置する等の対策を行った。これらにより安全に工事を完成させた。

マリーナ関係者との連絡調整



矢板位置標示ポールの設置



駐車場案内看板設置



3. その他工夫している点

本工事は河川工事であるため、常に河川水位の把握が重要である。作業員の安全確保・資機材の流出防止対策のため、遠隔地でも現場水位を把握できる自然災害防災システム ZEROSAI を積極的に活用し迅速な応急対応を行い事故防止を図った。



自然災害防災システム ZEROSAI



第一建設工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全議論のさらなる活性化と定着

・様々な側面からのアプローチにより、現場、支店、本社が一体となって、安全議論のさらなる活性化と定着を図る。

② チーム力を生かした事前リスク・変化点管理の実施

・現場において、「部門間を超えた施工検討会」等を計画的に実施し、事前のリスクと変化点管理を推進させる。

③ 過去の重大事故、他山の石に学ぶ事故防止活動の展開

・過去に発生した重大な事故の情報に類似事故防止のための注意点コメント等をつけて、本社から支店、現場に発信する。各現場は、この情報を受けて自箇所の業務に当てはめた事故防止の検討を行い、類似事故の未然防止を図る。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 工事における安全管理上の課題

本工事は、工事用道路設置と約 44,000m³の河道掘削と土砂運搬が主な工事であり、土砂運搬時には一時的に農耕者との共有道路を通行しなければならない事や運搬先が複数あることから第三者に対する交通事故防止が重要な課題であった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

土砂運搬前に、ダンプトラック運転手に対し各運搬経路に対する危険箇所を抽出した「ハザードマップ」を作成し危険箇所の周知や安全運転に対する教育を実施した。また、運搬時には専用の GPS 端末を配布し走行場所や走行速度の確認ができる環境を整備し、見通しの良い場所や渋滞が起きやすい場所などを確認し抜打ちパトロールを実施し運転時における具体的な指導を日々行い災害防止に取り組んだ。



ハザードマップ



運搬前安全教育



運搬状況確認

3. その他工夫している点

県道から施工箇所へ進入する斜路が狭く、工事用大型車が通行する際、農耕車との接触事故が懸念されたことから、新たに工事用搬入路の造成を提案し施工した。その結果、農繁期においても工事用車両と農耕車の安全通行を確保することができた。

ダイチ株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理の基本方針

当社は「事故は絶対に起こさない」を合言葉に作業環境の改善、使用機械・仮設備の安全点検、不安全箇所・不安全行動の撲滅を目標に「安全施工」に取り組んでいる。

②安全教育・訓練の強化

社員の安全意識の向上を図るため、社外からの視点として「労働安全・衛生コンサルタントの講師（委託）」による安全教育を隔月に実施している。

③リスクアセスメントを用いた安全管理体制

社内全工事に対して「リスクアセスメント」を取入れた「工事着手前検討会」を実施、また、現場でのKY記録においてもリスクアセスメントを重点に、リスクの除去・低減を図っている。

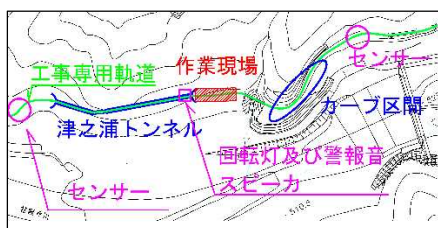
2. 現場等における具体的な取組事例

①工事専用軌道での列車接近時における安全管理上の課題

本工事は工事専用軌道の沿線における斜面对策工事である。このため、列車の安全通行に支障がないよう、通過時の作業の中断、資機材の落下防止や軌道の建築限界外への資機材の退避等に努める必要がある。しかし、作業現場は軌道の津之浦トンネルとカーブ区間となっており、見通しがきかない状況であるため、列車の接近を確実に把握し、速やかに作業を中断、列車を安全に通過させることが求められた。

②課題に対して現場で行った安全対策

現場では通常の列車見張員と共に列車接近感知装置（センサー）及び警報機を設置した。センサーは作業現場から上下流各 200m 地点の軌道の枕木上に取り付け、センサーの上部を列車が通過すると現場内に設置した回転灯が作動、併せてスピーカーから警報音が流れる。これにより、作業の中断、資機材の退避を行い、安全に列車を通過させることが出来た。



工事専用軌道



回転灯及び警報音スピーカー

3. その他工夫している点

- ・当社の各工事現場からの「ヒヤリハット報告」において、些細なことでも積極的に提出してもらい、社内定例会議（隔週開催）において、議論をし、その結果を情報として共有することで、労働災害の発生防止につなげている。
- ・点在する多くの施工箇所が斜面上部に位置しており、作業員の移動時間による疲労の軽減を図るため、乗車用のモノレールを配置した。

田中産業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 三大災害の撲滅

墜落・転落災害の防止、車両系建設機械・クレーン災害の防止
崩壊・倒壊災害の防止

② 第三者災害・交通災害の撲滅

ライフライン事故防止対策の強化、安全運転教育の充実

③ 健康保持増進対策の充実

新型コロナ対策・ストレスチェック・SDS 周知・産業医指導

2. 現場等における具体的な取組事例

① 上広田地区軟弱地盤改良その5 工事における安全管理上の課題

本工事は、上越と魚沼を結ぶ『上越魚沼地域振興快速道路』通称：上沼道における地盤改良工事である。

工事の特性として機械重量 130t 級の大型地盤改良機やバックホウ等の建設機械が混在する作業となるため、重機同士の接触及び重機と作業員の接触による重大災害のリスクが考えられ接触事故の対策が課題となった。



② 課題に対して現場で行った安全対策

作業開始前における作業計画・作業手順周知会において現場の機械配置や工事車両配置を3次元化し3次元モデルにより作業手順周知会を実施した。

機械配置計画を3次元化することにより、全作業員に具体的かつ立体的に配置計画の周知を行うことができ、周知内容に沿った機械配置を現場で確実に実施し重機同士及び重機と作業員の接触事故を防止することができた。



3. その他工夫している点

・土砂運搬に伴う過積載防止対策

改良ヤード造成に伴う土砂運搬時においては過積載防止対策としてバックホウモニタに積載重量が表示されるペイロードバックホウを採用し過積載防止に取り組んだ。



株式会社 中越興業

1. 会社としての安全管理重点事項

①基本理念

当社は「安全第一」を基本に、社会から信頼と共感を持って受け入れられる企業をめざし、働く人々が安心できる安全衛生環境の整備と向上を推進し、不安全行動による災害防止対策の徹底を図り労働災害を根絶する。

②社内安全管理体制

安全衛生委員会を毎月開催するとともに、協力会社参加による安全大会を毎年開催している(令和2年度、3年度はコロナ渦により協力会社に安全管理計画を配布)。また、工事着手前に「着工前施工検討会」を開催し、安全を含めた課題と対策を検討し、工事完了後に開催する「施工反省会」で対策の効果や改善点を確認する。

③社内安全パトロールの実施

安全パトロールを安全衛生委員長(社長)・建設本部長・安全環境課が個別に実施し、月3回以上の安全パトロール体制としている。また、安全衛生委員会によるパトロールも工事期間中1回以上実施し、パトロール結果の総評を他部門も含め社内全体に展開している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①本工事における安全管理上の課題

本工事は河道掘削土砂を約40km先の他工事へ搬出する工事であり、多数の運搬車両が長距離を走行することによる交通事故及び渋滞発生の防止が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

運搬経路とリスク箇所を入力した運行管理端末を土砂運搬車両に搭載することとし、運搬開始前には運転手と同端末を持って走行し、新たにリスクを聞き入れ追加した。運搬開始後は毎日パトロールを実施し、走行状況や新たな事象の発生等を運転手に周知した。また、渋滞や苦情が発生した際には新ルートや分散ルートの検討、及び台数調整等を迅速に実施し渋滞緩和を図った。



運転手による運行前走行



運行状況パトロール

3. その他工夫している点

交通事故防止の他に河道掘削範囲には橋梁や鉄塔があり、掘削時の接触防止対策としてICT建機に既設構造物防護ラインのデータを搭載して刃先の接触を防止した。また、橋桁と添加されているライフラインの接触防止にレーザー領域警報装置を設置して接触防止に努めた。



防護ラインデータ搭載 ICT 建機



レーザー領域警報装置

株式会社 傳刀組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針遵守の徹底

- ・安全衛生方針として下記3項目を徹底させる。
 1. 当社は、「安全」と「健康」の確保を最優先し、関係法令及び社内規程等を遵守する。
 2. 統合マネジメントシステムの適切な運用を図る。
 3. 職務上の役割に応じて、関係者全員の協力協調の下に、安全で快適な職場環境の維持及び継続的な改善に努める。

② 安全衛生管理システム体制の構築

平成24年に労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、導入後9年を経過した。また、緊急事態発生時現場が混乱しないように緊急時対応マニュアルを作成し配備している。

③ 社内安全誌『進める安全』の発刊

社内安全活動の起点となる、月刊誌『進める安全』を昭和62年より発刊している。安全活動・社長の言葉・社内安全パトロール(協力会と合同)の実施、是正・指導の報告・季節毎の便り・表彰について、社内掲示板の役割を併せ持ち、月間安全誌として発刊し続け、現在(令和3年8月)で412号の発刊に至っている。



2. 現場等における具体的な取組事例

① 金山沢第4号砂防堰堤における安全管理上の課題

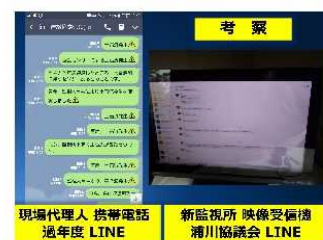
日本三大崩れの一つである稗田山を源頭部(水源)とする急峻で狭隘な金山沢は、日を追う毎に荒廃が進んでいる。土石流対策の主軸は土石流監視員であるが、監視所までの移動手段や監視所の環境の悪化により、監視員の確保が困難になっている。

② 課題に対して現場で行った安全対策

旧監視所に監視カメラ(映像と音声が可能)を設置し、新たに安全な場所にてカメラ映像を通じて監視を行い、高齢者や女性でも監視が行える環境を整備した。このことで新たな監視員を確保することができたと同時に監視員の安全も確保することが可能となった。

3. その他工夫している点

- ・ 監視カメラ映像を浦川工事関係者連絡協議会(5社)と共有した。また、携帯アプリLINEを利用し、土石流発生時の映像より下流の状況について同協議会に素早い情報提供が可能な体制を整えた。
- ・ 当年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から現場での安全教育は1回当りの受講者の人数を減らすため2回に分けて実施、ソーシャルディスタンスの確保、換気、飛沫感染を抑制するため動画による視覚的教育を主体に実施した。



株式会社 富樫組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理基本方針

株式会社富樫組は、建設事業及びその他の事業活動において安全・衛生・健康に配慮し、労働安全衛生法ならびに関係法令を遵守し、災害のない快適な職場づくりに努める。

「声掛けあって安全確認」をスローガンとし安全管理の徹底により、労働災害「ゼロ」を目指す。

②安全衛生管理体制の構築

安全管理実施計画書を毎年定め、安全衛生委員会による毎月2回の安全パトロールの実施、年2回の経営幹部による特別パトロールを実施している。パトロールの結果は毎月安全衛生会議に報告され、社内に水平展開される。

③働きやすい職場環境づくりと健康管理

株式会社富樫組は働きやすい職場環境をつくることによって、すべての社員がその能力を十分発揮できるよう新潟県の「ハッピーパートナー企業」に登録し、快適な職場づくりに取り組んでいる。また、「にいがた健康経営推進企業」に登録し、社員の健康づくり促進に取り組んでいる。

2. 現場等における具体的な取組事例

①朝日温海道路準備（山北地区）その4工事における安全管理上の課題

本工事は、朝日温海道路の勝木ICへのアクセス路を整備する工事で、現場周辺には商業施設、住宅街、学童保育施設が隣接している。

新潟県内では各地でクマの出没や人身被害が多発している状況で、現場周辺でも熊の出没が確認された。学童保育施設から子供たちの安全確保について相談を受け、熊対策を実施した。

②課題に対して現場で行った安全対策

通学路に電光掲示板や注意喚起標識を設置し、子供たちの通学時間帯には屋外スピーカーから音楽を流すことでクマ対策を実施した。

地域と連携したことにより子供たちの安全を確保することができた。



電光掲示板「熊に注意」設置状況



注意喚起標識設置状況

3. その他工夫している点

安全教育訓練ではVR技術を活用した工事現場に起こりうる事故を疑似体験する訓練を実施し、教育訓練のマンネリ化を防止するとともに、工事に携わる関係者全員の安全意識高揚に努めた。

砺波工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針

- ・労働災害のリスク低減に積極的に取り組み、労働災害の撲滅を図る。

② 安全衛生目標

- ・休業4日以上労働災害をゼロとし、強度率を0.03以内とする。
- ・主要機械等の作業計画書の作成及び周知を100%実施し関連する災害の撲滅を図る。
- ・定期健康診断（人間ドック含む）及び労災保険2次健康診断対象者の受診率・ストレスチェック提出率100%を目指し、全社員の心身の健康維持増進を図る。

③ 安全衛生管理計画

- ・店社安全衛生パトロールを毎月実施する。（経営層含む）
- ・安全衛生委員会を毎月開催し、情報提供等作業所の支援を行う。
- ・化学物質含めリスクアセスメントを行い、危険性・有害性の低減に努める。
- ・新型コロナウイルス感染症に関し、最新情報を発信する事で感染防止対策を徹底する。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 茅渟橋下部その7工事における安全管理上の課題

本工事は、一級河川小矢部川を鋼矢板にて半川締切りし、河川中央部の橋脚を施工する工事である。当該河川は過去幾度となく洪水被害が発生しており、本工事においても河川増水により締切りを越波し作業上の安全確保が出来ないなど、不測の事態が危惧された。その為、河川水位の監視・情報収集及び緊急時に早期に避難できる体制を確立する必要があった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

河川水位は現地にクラウド式水位測定装置を設置し、スマートフォンやパソコンにてリアルタイムで水位を把握する様にした。また、警戒水位に達すると大きな警報音と同時に警報灯（赤ランプ）が回転し作業員全員に周知できる対策を行った。また、緊急事態に備え月1回避難訓練を実施し、従事者全員で避難場所を確認し迅速に避難出来る体制を整えた。

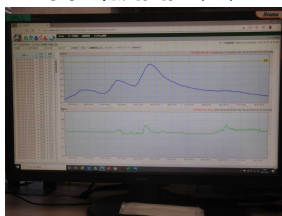
鋼矢板による半川締切り



クラウド式水位測定装置



水位観測画面(PC)



安全通路の整備



3. その他工夫している点

安全通路は緊急時に避難経路となる為、常に良好な状態を維持するようカラーマットを敷設し作業ヤードと区別した。また、階段にはソーラー式の照明を取付ける事により夕暮れ時でも安全に昇降出来る工夫を施し安全管理に努めた。

畑八開発 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の確立

従業員の「人命第一」を最優先に考え、現場での「安全」及び個々の「健康」を確保し、快適な作業環境を整え、労働できるよう努める。

②社内安全管理体制の構築

社内安全衛生委員会を設置し、専属の安全巡視員を選任し各現場最低1回/月以上の店社パトロールを実施しています。

また、外部指導員及び普段現場作業を見ることがない女性事務員を含めたメンバー体制を選出し第3者からの目線での指摘・確認を行っています。



女性従業員同行



外部指導員同行

③施工前検討会の実施

工事着手前には、社長・常務・工事担当者・河川工事経験者・安全管理担当者が参加し、施工前検討会を実施し、工事に際しての問題点や改善点を抽出する事により工事施工における安全管理に務めています。

2. 現場等における具体的な取組事例

①高野町護岸災害復旧工事における安全管理上の課題

本工事は、令和元年度の台風19号災害により被災した災害復旧工事であり、工事復旧箇所は4箇所に点在しており、千曲川の上流部でもあるため最も狭い狭窄部は河道幅が40m程度で仮締切の大きさにも制限があり、渇水期であっても不意な出水が予想されるため、それぞれの施工箇所からの緊急時の避難ルート及び避難時間について特に検討する必要があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

計画した避難ルートが適切か、または改善の余地があるかを検討し、確定した避難ルートにより避難場所への作業員・重機のそれぞれの所要時間を確認した上で、掲示板に明示し当日の作業箇所を確認する過程で、避難ルート・避難所要時間を随時確認することにより緊急時における避難に対する安全意識の向上を図ることができた。



緊急避難経路図

3. その他工夫している点

昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底するため、目に見えないウイルスに対し基本ルール（体温確認・手指消毒・三密の回避など）を厳守するため、安全教育などは極力屋外で実施し、店社の安全大会などは部署ごとの分散開催を実施するなどの対策を行いました。



屋外での安全教育



部署ごとの安全大会

町田建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針の徹底

・わが社は職場の安全衛生の向上及び公衆災害の撲滅を目指し、「安全衛生委員会」を設け、毎月社員全員から提出された目標から重点目標を選出し、当月の「安全目標」として周知することで社員一丸となって安全管理に取り組んだ。



写真1 屋外でのKY活動

②体制の構築

・作業員に対しては、新規入場時教育において工事全体の作業のどの位置の作業を分担してもらうのか、工程の流れやその重要性を理解してもらうよう徹底した。

・毎月実施される「安全衛生委員会」の安全パトロール結果を翌日のKYKで報告し、改善を行った。

③重点実施事項

・感染症対策として、始業時の体温測定や現場事務所入室時の手指消毒およびマスク着用し、多人数の集会は屋外で行った(写真1)。

・新規入場時は危険要因作業をポンチ絵などで作業員に説明するなど視覚で分かり易くするなど工夫した。

・熱中症対策として空調服を着用し、水分や塩分補給場所を複数個所に設置した。

2. 現場における具体的な取組事例

①安全管理上の課題

本工事は見通しの悪い山間部にある老朽化した鋼製スノーシェットの補修・補強を行う工事の為、交通規制が欠かせない作業が続くことが想定された。

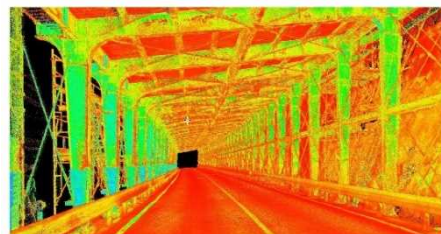


図1 TLSによる起工測量

②調査段階での道路規制の縮減への取組

既設構造物の起工測量には時間的制約や長期間作業になると考えられ、精度の向上・調査期間短縮を目的にTLS(地上型レーザーキャナー)を活用することにした(図1)。一般的には高所作業車を使用して、人力による調査で20日程度かかる道路規制日数をわずか2日に短縮でき道路規制に起因する第三者災害・交通災害の事故防止に寄与できた。

3. その他工夫している点

本工事のスノーシェット補強工は、部材設置の順序が通常とは反対に上部の部材から順次下部の部材を設置する工法になる。6m上空での重量物の逆順架設が主要工程であり確実な架設が要求された為、架設治具の工夫としてトロリーを用い安全かつ迅速な作業の流れを確保できた(写真2)。



写真2 トロリーによる架設

松本建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針の徹底

「松本建設は、人間尊重を基本理念に労働災害の防止を図り、社員及び協力業者の協力のもと、マツケンコスモスを推進、関係法令及び会社規程を順守し、心身の健康の保持増進を図り、安全で快適な職場環境を形成します。」を方針として取り組んでいる。

② 安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理活動計画に基づき安全衛生委員会(毎月)、店社パトロール(毎月/各作業所)、所長会議(年1回)、各種協議会への参加(毎月)、安全集会(年1回)を実施し、労働災害、パトロール結果、危険性又は有害性の調査等について審議し社員に教育指導を行い安全衛生に積極的に取り組んでいる。

③ 安全衛生教育の実施

建設業労働災害防止協会の安全指導者として所属する店社安全衛生管理者が社内の安全教育を年1回実施し、現場の安全教育、災害防止協議会にも参加している。また、安全衛生意識の向上及び経験・知見を共有する取り組みとして社員が参加する社内発表会を年1回開催している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 貯水池法面進入路整備(その2)工事における安全管理上の課題

本工事は、斜面崩壊により広範囲に不安定な崩土・浮石が堆積している法面の対策工を行う工事である。急峻かつ長大法面での作業においては滑落や転落による重大な労働災害が懸念される厳しい現場条件であったことから作業者の安全対策及び施工性の向上が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

機械掘削における危険性又は有害性のリスク除去・低減対策としてオペレータが搭乗作業を行わず、安全な場所で機械の操作をリモコンにより遠隔操作で行える無人化掘削機を選定し、施工を行ったことで安全性の向上を図った。



3. その他工夫している点

- ・現場の仮設備においては異常気象時の迅速な退避及び熱中症・新型コロナ対策を考慮して、休憩所にテントや移動式トイレを採用する等の安全衛生に対する工夫を行った。
- ・幅員の狭い敷砂利の工事用道路においてロードマットによる道路の拡幅及び管渠側溝による排水機能の維持等を行い、工事期間中を通して工事車両が安全に通行できるように整備・維持を行った。



株式会社丸西組

1. 会社としての安全管理重点事項

①丸西組安全方針の遵守

基本理念である「人命の尊重」を安全行動の基本原則として全ての作業に安全を優先させる為、安全衛生基本方針「リスクの特定 改善する努力 そこから始まる 安心・安全」スローガンの基、丸西組独自の安全十ヶ条を制定し全作業所が一丸となり、年度安全目標を達成する。

②社内危機管理体制の構築

安全衛生管理組織図、丸西組組織図の組織体制により、緊急事態発生時は緊急事態発生連絡系統図に基づきトップまで早急に報告できる体制を整えており、全社員による全体会議、土木部会議、建築部会議、安全衛生委員会を毎月開催し、問題点を報告し解決していく体制としている。また各会議及び毎週実施の朝礼では各部署の情報共有を行い、常に危機管理体制を強化している。

③ヒヤリハット収集、検証、周知の実施

各作業所のヒヤリハット事例を収集し、安全衛生委員会で検証しデータを蓄積、また類似工事担当者への周知を行い災害防止に寄与する。

2. 現場等における具体的な取組事例

①市道堤防兼用道路に隣接した工事における安全管理上の課題

本工事川辺工区は堤体遮水性確保のための置換工事を行うため、土砂の搬入出を頻繁に行う工事であり、大型車両の工事用道路として市道堤防兼用道路の利用が必須であったが、兼用道路は近隣保育園送迎経路、自動車学校検定ルート、また近隣中・高等学校の通学路として利用されていた。兼用道路は幅員が狭く大型車両と一般車両の交錯が困難であり、施工中の規制及び堤防利用者・近隣住民等第三者の安全対策が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

施工中の規制計画を行う上で、周辺町内会・近隣保育園・自動車学校・関係小中高等学校7校に事前に工事内容及び規制計画の訪問説明を行い、理解を得た上で昼間(AM8:30～PM5:00)一般車両を規制(通行止め)し工事車両専用道路として施工を行った。また、兼用道路小段部を利用して歩行者通路を設け、堤防利用者に配慮した規制管理を実施した。歩行者通路沿線には毎月の進捗状況写真を掲示、近隣町内会には掲示資料の配布を定期的に行い、堤防利用者及び近隣住民に工事進捗及び工事車両運行に係る規制に対する理解・協力意識の向上に努めた。

3. その他工夫している点

堤防背面には家屋が建ち並ぶ場所での施工であり、施工時の振動及び騒音の実数値を確認・把握するため、施工当初及び施工中に工種毎に騒音・振動測定を実施し、作業内容による騒音・振動実数値を現場従事者が把握した上で周辺環境に配慮した施工を行った。

南建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

社員、一人一人が安全で働きやすい環境を確保し、労働災害の撲滅を図り、社会・顧客から信頼される企業を目指す。

②社内安全管理体制の構築

1. 弊社受注工事の土工事は自社運転手、自社機械による直営班が作業を担っているため、全社員対象の安全朝礼を週1回、実施し、その際、当番制で安全作業に対する取組みを発表し、安全に対する意識の高揚を図っている。安全衛生会議は、受注工事の各現場を担当する監理技術者・現場代理人で週1回実施し、会社全体で各現場の安全・進捗状況を共有している。
2. ICT 建機、機械周回カメラシステムを搭載したバックホウ、エブリデイドローン、GPS 付きスマートフォンによる IOT 技術を使用した運行管理等を導入し、安全で働きやすい環境を整備している。

③安全教育の実施

1. 安全大会の実施を社員及び協力会社が参加して、安全に対する意識高揚を図っている。
2. 外部講師による労働衛生に関する講和等を行っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R1能越道 中道路その10工事における安全管理上の課題

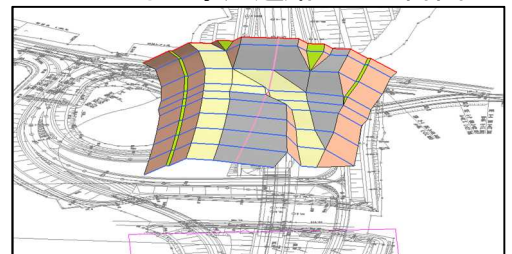
本工事は、三井IC(仮称)において、盛土工・補強土壁・ブロック積み及び排水構造物を行い、別ヤードではトンネルから発生した岩ズリを自走式スクリーン及び自走式破砕機を併用した、ふるい分け・小割・運搬作業し、盛土を行った。

本工事を円滑に遂行する為に、近接工事4社との詳細な工程調整と適正な施工管理と安全衛生管理を求められた。特に盛土施工区間内においては、他社の工事用道路を確保した上での施工であったため工事用道路を4回切替し、常時、工事用道路を確保した。

②課題に対して現場で行った安全対策

1. 工程調整を図るため、工事用道路設置・盛土計画、進捗把握には ICT 施工を導入し、省力化・効率化、安全性の向上を図ることができた。
2. 交通管理としては、現場内及び県道上の土砂運搬車滞留を防止するため、ロータリー式の運搬経路を設置する仮設計画を作成した。

3Dによる工事用道路・盛土計画



補強土壁工 足場設置状況



3. その他工夫している点

1. 本工事の安全管理重点項目である補強土壁工における墜落災害防止対策として、従来のキャットウォークを変更し、軽量で組立て作業が容易な新技術の足場を使用した。

株式会社宮地組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

「職場の危険性・有害性の低減を図ると共に、業務に伴う健康障害を無くし快適な職場環境を構築する」

②安全衛生管理体制

i) 社内安全衛生管理組織構築、緊急連絡体系構築、安全衛生委員会設置 ii) 安全対策室(労働安全コンサルタントの配置)設置 iii) 安全衛生協力会設置

③活動(実施)項目

a) 工事現場パトロールの充実 b) 「安全メッセージ」の発刊 c) 安全大会・講演の開催
d) 「安全と健康」に関する情報入手と周知 e) 当社員と協力会による研修会・意見交換会
f) ノー残業デーの推進 g) 健康診断有所見者再診の徹底

2. 現場等における具体的な取組事例

①R1・2 能越道 小泉道路その17 工事における安全管理上の課題

課題(1) 相当な高さを伴う急峻な山地形であることや、施工箇所真下に準用河川が存在することから、施工箇所への進入路(工所用道路)の形状とその設置方法。

課題(2) 相当な壁高の補強土壁(特に笠石コンクリート)の施工方法。

②課題に対して現場で行った安全対策

課題(1)に対しては、大型土のうで対応。幅員の確保と盛土土砂の安定、場外への土砂流出を防止した。

課題(2)に対しては、ブラケット型吊足場(単管)で対応。当足場は単管の定寸法単位で地組を行い、対象箇所にセットする方法を取った。これにより、当笠石コンクリートの型枠とコンクリートの施工、及び足場の施工における安全性と作業性向上に寄与した。



3. その他工夫している点

・課題(1)に関連して、バックホウの山側旋回を徹底することで、真下の準用河川(場外)への落石等を防いだ。

・課題(2)に関連して、特殊な器具を製作し、それを支柱とするロープ柵を設置して転落防止を促した。

・熱中症対策として、ミスト扇風機を備えた休憩施設を設置した。

